



ホテルの庭園には岩崎男爵に関わるものが、今も残されています。

**A 見南山荘(けんなんさんそう)の石碑**

「見南山荘」とは、大漢和辞典の編纂者で、漢学者の諸橋轍次氏につけてもらった別邸の名前。碑には1938年、諸橋氏が別邸に赴いて講義をしたときの模様を詠まれ、芦ノ湖の景観の素晴らしさなどが記されています。

**B ホテルとともに時を刻む「日時計」**

2009年4月、ホテル開業60年を記念して、別邸時代に使われていた日時計を復活させました。100年近い年月の間に失われた文字と針を新たに造り、庭園のシンボルとして、ホテルの「時」を刻み始めました。

**C 草木慰霊塔碑**

岩崎男爵が庭園を造成するため、幾多の樹木や灌木を伐採せざるを得ず、切り倒した草木のすべての霊に対して供養を施したいという思いから1937年(昭和12年)に建てられたものと伝えられています。

**D ゴーマー・ウォーター**

岩崎男爵がイギリスから輸入したシャクナゲ。日本で最初に輸入された西洋シャクナゲのひとつと言われている。

**山のホテル庭園ここをCHECK!**



**1 ゴヨウツツジ**  
敬宮愛子内親王のお印にもなっているゴヨウツツジ。枝先に5枚の葉をつけることからこの名がつけました。別名「シロヤシオ」とも呼ばれています。



**2 三本杉**  
実際には7本ありますが、岩崎男爵の別邸時代から「三本杉」と呼ばれています。見る角度によって大きな3本の杉に見えるのでしょうか・・・。



**3 ビューポイント【富士山】**  
庭園から富士山を眺めることができる、ビューポイント。富士山をバックに記念撮影できる、おススメスポットです。



**4 ローズガーデン**  
2002年に向ヶ丘遊園から譲り受けたバラをはじめ、6月と10月の年2回見頃を迎えます。高貴で目を引くものから清楚な花が咲く品種など、バラの甘い香りに包まれます。



**5 八重げら**  
約3,000株あるツツジの中でも、一番大きな株の八重げら。高さ、直径ともに3メートル以上あり、その大きさに圧倒されます。



**6 サンショウバラ【箱根町の花】**  
富士山や箱根周辺にのみ分布する、フォッサマグナ要素植物のバラ。名前は葉の形が山椒の葉に似ている事に由来し、また分布域から「箱根蕃薇」とも言われています。



**7 ビューポイント【紅葉の小径】**  
ツツジ・シャクナゲで知られる庭園ですが、秋の紅葉シーズンには、この周囲一帯が黄色や赤へと色づき、その葉が敷き詰められると「赤い絨毯」の上を歩くかのよう。



**8 マメザクラ**  
野生種の桜の一つ。他のザクラよりも葉も花も小さいことが名前の由来です。富士山周辺に多いのでフジザクラとも呼ばれています。



**9 西脇呉石氏の石碑**  
西脇氏は、書道の大家にして漢詩と南画の才能の持ち主でもありました。箱根を愛しホテルを毎年訪れ、多くの詩編を詠みました。この碑は生誕100年を記念し、由縁の土地に造られた物です。



**10 プレミアムショップ&サロン・ド・テロザージュ**  
別邸時代、岩崎男爵が芦ノ湖に趣味のモーターボートを走らせ、この場所を艇庫として使用していました。現在では、ティーサロンとなっています。